

南海高野線連続立体交差事業 方法書 概要版

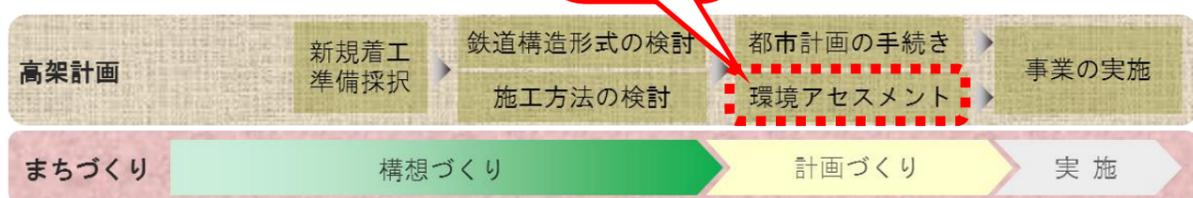
■事業概要

- 【事業名】南海高野線連続立体交差事業
- 【区間】浅香山駅～堺東駅付近 約3.0km
- 【駅施設】浅香山駅、堺東駅
- 【除却踏切数】10箇所
- 【事業主体】堺市
- 【事業費】約565億円

■事業経過

- 2009年度：新規着工準備採択
- 2011年度～2017年度：断層を考慮した構造形式の検討
- (予定)2020年度：都市計画決定
- (予定)2021年度：事業認可取得
- (予定)2040年度頃：高架工事完了

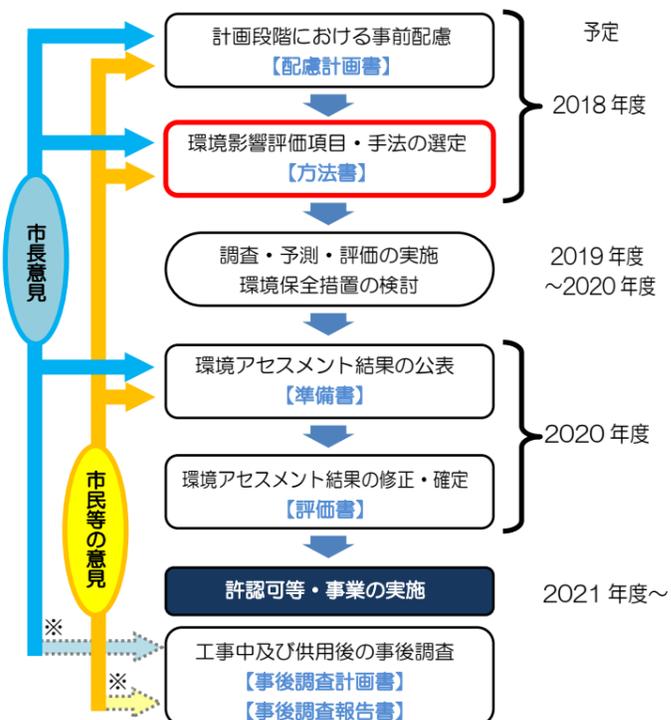
■事業の流れ



手続き中



■環境アセスメントの手続き



■方法書

事業者は、概略を決定した事業計画について、環境アセスメントを行うにあたっての調査・予測・評価の方法などを記載した環境影響評価方法書（方法書）を作成し、市長に提出します。また、事業者の事務所などで縦覧するとともに、自らのウェブサイトなどを通じてインターネットによる公表を行います。

■方法書の縦覧

縦覧期間：平成31年2月22日（金）～平成31年4月8日（月）
 縦覧時間：午前9時～午後5時30分
 縦覧場所：環境共生課（高層館4階） 連続立体推進課（高層館17階）

■事業計画の概略の決定

	A案（事業計画）	B案	C案	D案
概要	堺東駅周辺：直上2層高架 その他区間：西側仮線1層高架	堺東駅周辺：直上1層高架 その他区間：西側仮線1層高架	堺東駅周辺：地下 その他区間：西側仮線1層高架	堺東駅周辺：直上2層高架 その他区間：東側別線1層高架
略図				
環境配慮上の特徴	近傍からの景観や日照に対して要配慮	工事期間が最長で、幹線交通、沿線住民への影響が大きい	工事期間が長く、地下と高架の切替部で現在の踏切部が横断不可	A案同様であるが、鉄道が東側住宅地に寄る
事業目的との整合性	中心市街地活性化 ◎ 沿線の交通利便性向上 ◎ 踏切渋滞解消 ◎	中心市街地活性化 ◎ 沿線の交通利便性向上 ◎ 踏切渋滞解消 ◎	中心市街地活性化 ◎ 沿線の交通利便性向上 △ 踏切渋滞解消 ◎ (横断不可の箇所発生)	中心市街地活性化 ◎ 沿線の交通利便性向上 ◎ 踏切渋滞解消 ◎
構造適応性	断層変位に対応可能 復旧性は一般的	断層変位に対応可能 復旧性は一般的 ◎	断層変位の影響を強く受け、鉄道利用者の安全性に課題 復旧作業が困難 △	断層変位に対応可能 復旧性は一般的 ◎
沿線住民の負担(必要用地)	連続立体交差事業として一般的 ○	A案で必要となる用地に加え、北花田跨線橋を撤去時の幹線道路迂回路設置に更に用地が必要 △	A案で必要となる用地に加え、地下と高架の切替部で仮線が発生するため、更に用地が必要 △	連続立体交差事業として一般的 ○
経済性	1.0 ○	1.3 △	1.7 △	1.01 ○
その他(鉄道線形)	鉄道構造物を現在の線路の直上に構築するため、平面線形は現在と同等となる ○	鉄道構造物を現在の線路の直上に構築するため、平面線形は現在と同等となる ○	鉄道構造物を現在の線路の直上或いは直下に構築するため、平面線形は現在と同等となる ○	鉄道構造物を現在の線路の東側に構築するため、東側背後地などに新たな環境保全の配慮が必要となる △
総合	◎	△	△	○

※市長が必要と認めるとき

■環境影響要因の選定と調査・予測・評価の概要

環境要素	環境影響要因		工事の実施			施設等の供用		調査・予測・評価の概要	
	細区分	細区分	建設機械の稼働	工事車両の走行	土地の掘削	施設等の存在	列車の走行		踏切の除却
大気質	一酸化窒素(NO) 二酸化窒素(NO2) 浮遊粒子状物質 (SPM)		○	○				○	既設観測局の測定値を現況値とし、工事の実施や高架後の自動車交通による大気汚染物質の影響を予測式により算出して環境基準と比較する。
	粉じん		○	○	○				事前の現地調査の測定値を現況値とし、工事の実施による粉じんの影響を予測式により算出して基準と比較する。
騒音	騒音		○	○			○	○	事前の現地調査の測定値を現況値とし、工事の実施や高架後の列車走行、自動車交通による騒音・振動の影響を予測式により算出して基準と比較する。
振動	振動		○	○			○	○	事前の現地調査により現況を把握し、高架後の列車走行による低周波音の影響を類似事例により推定する。
低周波音	低周波音						○		地歴調査により現況の土壤汚染状況を確認し、汚染の拡散防止の基礎資料とする。
土壤汚染	特定有害物質				○				事前の現地調査により現況の日照の程度を確認し、高架構造物による日照阻害の影響を予測式により算出して基準と比較する。
日照阻害	日照阻害					○			事前の現地調査により現況の電波障害の状況を確認し、高架構造物による電波障害の影響を予測式により算出して基準と比較する。
電波障害	電波障害					○			事前の現地調査により現況の光害の状況を確認し、工事の実施や高架後の列車走行による光害の影響を定性的に算定する。
光害	光害	○					○		既存資料等により現況のコミュニティの状況を確認し、工事の実施による影響を定性的に把握する。
コミュニティの分断	コミュニティの分断			○					既存資料により地下水の状況を確認し、工事の実施や高架構造物基礎による地下水への影響を類似事例により把握する。
水象	地下水				○	○			既存資料により現況の自然との触れ合い活動の場の利用状況を確認し、工事の実施による影響を定性的に把握する。
人と自然との触れ合い活動の場	人と自然との触れ合い活動の場			○					事前の現地調査により現況の景観を把握するとともに模型及びVRやフォトモンタージュにより、高架構造物の影響を確認する。
景観	都市景観 歴史的・文化的景観					○			既存資料により埋蔵文化財の包蔵地を確認し、工事の実施による。
文化財	埋蔵文化財				○				工事の実施や高架後の交通量の変化を数値計算により算出する。
地球環境	地球温暖化	○	○					○	既存資料や数値計算により、建設廃棄物や発生土の発生量を把握する。
廃棄物等	産業廃棄物 発生土				○				事前の現地調査等により自動車や歩行者の交通量を確認し、工事の実施や高架後の自動車交通による安全性への影響を定性的に把握する。
安全	交通			○				○	

■今後の主な予定

2019年 3月15日(金)	方法書説明会(堺東駅周辺)
3月17日(日)	方法書説明会(堺東駅周辺、浅香山駅周辺)
～4月 8日(月)	方法書に対する意見書
夏頃	方法書の審査書
夏頃～	調査・予測・評価の実施(通年)
2020年 夏頃	準備書の提出
夏頃	準備書説明会・都市計画説明会
秋頃	準備書に対する意見書・公聴会・公述意見書
冬頃	準備書の審査書
2021年 2月頃	都市計画審議会
3月頃	評価書の提出
3月頃	都市計画決定